

# 【彙報】（平成十九年四月～平成二十年三月）

## ◎平成十九年度埼玉大学国語教育学会大会 総会

○平成十九年十二月一日（土） 於埼玉大学

### ◇研究発表

①大伴家持と「惑」の七十一七番歌を中心に

大野まゆみ（埼玉大学大学院2年生）

②応仁記蟹の歌の意義

井上 隼人（埼玉大学大学院2年生）

③「フィンランド・メソッド」を取り入れた指導過程の提案

清水 典子（埼玉大学大学院2年生）

④教育における「楽しい」の意味の再検討

松本 顕記（埼玉大学大学院2年生）

⑤教育における観念的二重化

森川 大地（埼玉大学大学院2年生）

⑥言語活動を脳からの視点で捉える

秦 大介（埼玉大学大学院2年生）

⑦生涯にわたる読書への契機をつくる授業の構築

江原 瑞貴（埼玉大学大学院2年生）

⑧コミック誌に見るオノマトペの変遷

羽根田沙樹（埼玉大学大学院2年生）

### ◇講演会

祭りの構造と継承

飯泉 健司（埼玉大学教育学部准教授）

### ◇総会

## ◎平成十九年度例会

○平成二十年二月十六日（土） 於埼玉大学

### ◇長期研修生研究発表

①「生きる」力を育成する国語科授業

岡島 満（川越市立高階中学校教諭）

②「書くこと」の意欲を高める国語科指導

越智 宏明（さいたま市立三橋中学校教諭）

### ◇修士論文発表

①能力主義教育からの転換

松本 顕記（埼玉大学大学院2年生）

②教育実践に向けての基礎的理論の研究

森川 大地（埼玉大学大学院2年生）

③生涯にわたる読書への契機をつくる授業の構築

江原 瑞貴（埼玉大学大学院2年生）

④論理的思考力・表現力を高める

「伝え合う」学習の工夫

清水 典子（埼玉大学大学院2年生）

⑤分類によるオノマトペ研究

羽根田沙樹（埼玉大学大学院2年生）

⑥『万葉集』巻四・七十一七番歌考

大野まゆみ（埼玉大学大学院2年生）

⑦応仁天皇婚姻伝承の意義

井上 隼人（埼玉大学大学院2年生）

⑧脳科学の知見から国語教育を考える

秦 大介（埼玉大学大学院2年生）

### ◇卒業研究発表

小学校における学習を支えるための

人間の関わりについて

池田 卓思（埼玉大学4年生）

◇講演会

新出土の竹簡から見た文字の変遷

大橋 修一(埼玉大学教育学部教授)

◎平成十九年度修士論文・卒業論文題目

○修士論文題目

平成十九年度修了生(平成二十年三月修了)

能力主義教育からの転換

―「楽しい」から考える「感性主義教育」の構想―

松本 顕記

教育実践に向けての基礎的理論の研究

森川 大地

生涯にわたる読書への契機をつくる授業の構築

―近現代文学作品との出会いを中心として―

原 瑞貴

論理的思考力・表現力を高める

「伝え合う」学習の工夫

―「フィンランド・メソッド」を取り入れた

指導過程の提案―

清水 典子

分類によるオノマトペ研究

羽根田沙樹

『万葉集』巻四・七一七番歌考

大野まゆみ

応仁天皇婚姻伝承の意義

井上 隼人

脳科学の知見から国語教育を考える

秦 大介

○卒業論文題目

平成十九年度卒業生(平成二十年三月卒業)

おしろい研究

青柳智香子

「仁」の考察

阿部 樹

『ハリー・ポッター』研究

阿部 菜摘

劇場版「クレヨンしんちゃん」

五十嵐綾子

表現力とことば・こころ・からだ

五十嵐 巧

擬音語の研究

池尻野洋平

小学校における学習を支えるための

人間的関わりについて

池田 卓思

「子供」の漢字表記用法の研究

池田 悠

三島由紀夫研究―『豊饒の海』論―

因幡 智慧

正史三国志における蜀

井上 真人

『源氏物語』の舞楽

伊原 永恵

専門家アクセント現象の今

岩田 直子

夏目漱石研究

宇都宮翔子

北前船について

大崎真梨絵

児童文学作品に登場する「魔女」の意味と可能性

大野 名緒

あまんきみこ研究

大水 瑛美

ショートショートの結末にいたる過程

岡部 真利

山岡鉄舟の書について

篠島 理恵

中国茶文化の歴史的考察

小高 一樹

上代にみる障害観

笠原 由希

『宮本武蔵』における吉川栄治の武道観

加藤 元気

小学生の文法能力

金子 祐子

「乙」研究

鎌田 大輝

幼児のことばに文法はあるのか

唐木 暁子

古事記婚姻譚の研究

川相 尚実

人名のアクセントによる地域差

古河(岸上) 真由美

愛着が孤独感に与える影響に関する一考察

岸良 朝子

外来語について

北野 仁

子どもの絵における絵の役割と

図画工作科教育の在り方

— 国語科教育との連携を視野に —

楠 亜希子

日本書紀 保食神の食物起源神話

小林 康子

『介護入門』研究

佐久間雄一

伊坂幸太郎論

— 登場人物と状況の格言化の役割について

渋谷 仁美

「やつす」とその関連語彙の研究

島倉 真澄

『モモ』と今

竹前真菜美

五伴緒の研究

内藤真美子

かわらけ投げ考

中島 伸悟

森鷗外研究

— 『舞姫』『半日』に見る愛の形と女性の姿

仲島 留美

「ブログ」をもとにした作文指導

中村 福茂

大國主神話研究

中山 明俊

デイズニーが愛されるわけ

沼田 大輔

国木田独歩研究

橋本 友佳

文法指導について

東出 萌奈

古事記におけるスサノオ観

堀口 優

トーク番組の司会者から学ぶ

コミュニケーションのヒント

宮内 佑

トーベ・ヤンソン『ムーミン童話』研究

茂木 里恵

小僧の研究

山田以津子

児童文学と宮崎アニメの関係

山谷 光平

日常生活で使われる

「ふつう」という言葉の含み意味

湯本あや佳

韓非と秦の始皇帝

渡邊 詩穂

いま子どもたちに何をしてあげられるか

— 言葉の大切さにを考える —

名城つかさ

国語教育の課題と可能性

畠山 茂久

国語教育論 — 国語教育の在り方について —

松本 晃一

『論語』の研究 — ものを教える孔子の姿 —

横石 信子

# ◎ 埼玉大学 国語教育学会 研究奨励賞受賞論文の紹介と講評

平成十一年度より、研究・教育の活性化のため、学生会員の作成した卒業論文の中から特に優秀と認められたものを表彰しています。第九回に当たると今回は、三点の論文に研究奨励賞（賞状と副賞）が与えられました。

以下は、受賞した論文の紹介と講評です。

## 「小学生の文法能力」

金子 裕子

本論文は小学校二年生児童の文法能力を調査したもので、受身文や使役文などの文変換能力などを中心に、その発達のあり方を考察した。こうした調査研究は一九七〇年代ごろに国立国語研究所によって行われた言語習得に関する調査を進展させたものであり、また、現代における実状を明らかにするものとして意義深いものと考えられる。

（村上 謙）

## 『やつす』とその関連語彙の研究」

島倉 真澄

本論文は「やつす」という語彙について、通時的にその意味と用法の変遷について論じたもの。上代から近代にいたる約一二〇〇年間の語史調査であり、文学作品を中心とした豊富な資料に基づいた十分な調査と精緻な分析が行われており、優秀論文として認められる。

（村上 謙）

「小学校における学習を支えるための

人間的関わりについて」

池田 卓志

本論文は、小学校における学習指導が成立するためには、児童に対する教師からの人間的な関わりが大きく作用するという観点から、小学校及び幼稚園における関わりの事例を基に考察したものである。これまでの研究において盲点になっていた部分に鋭く迫る優秀な論文として高く評価された。(なお、池田氏は、本年度から創設された埼玉大学教育学部鳳翔賞も併せて受賞した。)

(戸田 功)

## 編集後記

埼玉大学国語教育論叢第12号をようやく発行することができました。本号では、学会企画の講演の採録の他、投稿論文一編、研究ノート一編を載せることができました。会員諸氏には、今後とも、奮ってご投稿くださるようお願いいたします。次号は年度内に発行できるようにしたいと思います。

(T)